

岩手県工業技術研究推進会議 生産技術部会議事録		(実施日) 平成16年10月29日(金)
(テーマ名) 新方式木質チップボイラーの開発 (中間評価)		
委員	質問・意見	回答
F委員	100%チップの冬季の凍結、夏期の発酵はどうか？	凍結...サイロブッシャで押し込むので大丈夫。カロリー減については今冬調査。 発酵...発酵で水分増の可能性もあるが大丈夫だと思われる。
A委員	導入先は？ コストメリットは？ 海外製の6台はどこのチップを使用しているのか？ 現在の導入施設は？ 開発したボイラーの導入予定施設は？	導入先...市町村。 コストメリット...石油と比べるとコスト高だが、海外製品の半額であることをPRポイントにしたい。 どこのチップか...ボイラ導入施設に近いチップ工場の物を使用。 導入施設...現在・今後とも、先ず公共施設に。
D委員	昨年度は200台を目標にしていたが、今年度は20台になっている。なぜか？	昨年度の目標は5年で200台だが、生産能力等を再度検討し、年間20台に修正した。 (所長)ストーブの反省から、早めのPRを心がけた。何とか目標を達成したい。 (プロジェクト研究推進監)青森・秋田へもPRを行う。
E委員	県の目標数値であるH18年度2120台の内訳は？ 省スペースと言うが、海外製品と比べてどのくらいか？	内訳は、2092台(ストーブ)、ペレットボイラー17台、チップボイラー11台。 省スペース...kw当たりに換算すると、海外製品の60%程度に相当する。実現理由は、ターゲットを対応含水率を100%とし、固定床方式を採用したこと。これにより海外製品に比べて大幅に小型化が可能となった。
D委員	今のボイラー・ストーブは新しい木材を燃料に加工している。木製の搬送用パレットや、木くずを集めて燃料として利用できないか？	分別方法が確立されれば利用可能になると思われる。
	(コメント) 法をどのレベルまでゆるめるかが重要。期待している。	
B委員	技術的なデータ(100kwの目標に対する現在の出力、効率など)は、これから収集するのか？ 重油と比較したランニングコストは？(競争力を示して欲しい)	データ...時間あたりのカロリー数データは現在も収集している。またボイラー効率もデータ収集しており、80%前後で安定している。 ランニングコスト...チップの値段にばらつきが大きく、コスト計算が難しい。現状は倍近いコストとなっている。